令和7年3月12日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立油面小学校
校長 衣非 まさ子

令和6年度 目黒区立油面小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 実施日時 令和7年1月18日(土) 13時00分～14時30分

- ・授業参観(午前中)
- ・四者評価の結果報告
- ・学校評価についての協議

2 参加者

校長：衣非まさ子 副校長：吉田真紀子

学校評議員：後藤孝子 河手正子 細谷浩史 フォルダー清子

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	四者※による学校評価アンケートの結果分析 ◎(成果)、●(課題)、 ⊙(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎学校全体については、保護者の肯定的評価の割合は80%以上であったものの、「学校での様子は楽しそうである」については昨年度より4.5ポイント低下した。また、低学年児童の「学校は楽しい」が79.4%と8割を切ったことは大きな課題と受け止めている。学級の雰囲気、友達関係、学習の理解等、様々な理由により、学校や教室に行きづらいつ感じている児童が増えていることが要因と考えられる。	教職員が明るく楽しく児童と関わること、児童の気持ちに寄り添い信頼関係を築くことを基本として、「いつでもだれにでも相談しやすい環境づくり」に努める。保護者や地域の方に対しては、引き続き丁寧に誠実に接することを心がけていく。	学校公開では、児童は楽しそうに活動していたが、低学年児童の肯定的評価の割合が8割を下回ったことは重く受け止めるべきである。児童と教員の信頼関係、児童に寄り添う姿勢がますます大切になってくる。

<p>II 教育目標について</p> <p>・教育目標、時程、教育内容全体について</p>	<p>◎保護者の肯定的評価の割合は 85.2%であり、昨年度より約 8 ポイント上昇した。「誰一人とり残さない」等の指導の重点が共感を得たのではないかと捉えている。</p>	<p>引き続き、「一人一人のよさを生かす」「誰一人とり残さない」「目標に向かって、努力を続けるプロセスを大切にする」という学校経営の基本方針を継続していく。特に「誰一人とり残さない」を学校経営の土台に置く。</p>	<p>教育目標や指導の重点、学校経営の基本方針は、学校行事や学校公開の場で具現化に向けた取組が見られること、日常の児童の姿から実感できることが大切である。</p>
<p>III 心の教育について</p> <p>・道徳科(道徳)の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p>	<p>◎保護者、児童とも 8 割以上の高い評価を得ることができた。特に児童の評価が 90%以上と高い。年間を通してのいじめ防止の取組や指導により、命や思いやり、いじめは許されないことについての意識が児童の中に高まっている。</p>	<p>道徳科の授業の充実に努めるとともに、年間を通して、全教育活動の中で「親切、思いやり」「生命の尊さ」「相互理解」等について指導する。</p>	<p>道徳の授業で考えたこと、学んだことが実践として生かされることが大切であり、その様子を見取ってほしい。</p>
<p>IV 学習指導等について</p> <p>・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について</p> <p>・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について</p>	<p>●保護者の肯定的評価の割合は、昨年度とほぼ同様の 73.0%で伸び悩んでいる。また、児童への「学校の勉強は分かりますか」の問いについては、高学年児童の肯定的評価の割合は 92.5%であったが、低学年児童は 79.9%で昨年度よりも 9.6 ポイント下降した。「できた」「わかった」という実感が伴わずに学習が進行していることが考えられる。</p>	<p>①児童が主体的に学び、「できた」「わかった」を実感できるよう「児童が自ら問いをもち、すすんで学習できるようにする」「単元全体の見通しをもたせる」「ユニバーサルデザインの視点に基づいた分かりやすい授業展開」に努めることを全教員が実践できるようにする。</p> <p>②交換授業や教科担任制を取り入れ、授業内容の充実を図る。</p> <p>③校内研究・学習指導研究会・OJT ペアによる授業づくりなどを通して学習指導力の向上に努める。</p>	<p>特に低学年は、教師の指導力よりも、「話を聞いてくれる」「相談にのってくれる」「先生のこと好き」ということが、学習への姿勢につながっているのではないかと考えられる。教師から受け止めてもらえないと学習意欲も低下する。</p>

<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>●保護者の肯定的評価の割合は、89.7%で昨年度より約 20 ポイント上昇した。取組自体は、昨年度と大きな変更はなかったことから、設問に具体的な取組を記載したことで保護者が設問の意味をとらえやすくなり評価が上がったと考えられる。</p>	<p>引き続き、外遊びを推進するとともに、なわとび週間やなかよしマラソンなどの取組の充実に努め、運動の日常化及び体力の向上を目指す。また、体育科の加配教員の専門性を生かした体育指導が、校内研修等を通して他の教員にも波及するようにする。</p>	<p>今年度の取組を次年度も継続してほしい。</p>
<p>VI 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて 	<p>◎保護者の肯定的評価の割合は、86.2%で昨年度より約 8 ポイント上昇した。展覧会アンケートからは、展示内容や開催時間の夜間延長が保護者から好評だったことが分かる。児童は、昨年度に引き続き、9割以上の肯定的評価を得ることができた。</p>	<p>運動会は、開校100周年記念にちなんで種目の内容を工夫するとともに、団体競技を行うなどプログラムの編成を一部変更する。各委員会の委員長・副委員長で構成される「開校100周年リーダー会」を要として、児童の考えや希望を最大限生かした児童主体の周年の取組を推進する。</p>	<p>展覧会が19時まで開催され、ゆっくり鑑賞することができよかった。</p>
<p>VII 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 	<p>●保護者と地域の肯定的評価の割合が70%台、教職員については60%と大変低い結果となった。一部の児童や学級が落ち着かない様子が見られたことが大きな要因と考えられる。また、その現状に対する学校の対応が不十分と評価されたことを重く受け止めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律、生活規律を徹底させ、誰もが安心・安全な学校生活を送ることができるようにする。 ・生活指導夕会等を通していじめの早期発見、早期対応に努める。 ・校内の別室登校対応の部屋には学習指導講師や学校教育支援員を常駐させ、不登校傾向のある児童が安心して過ごせる居場所とする。 	<p>落ち着いた学校生活については、二極化している。問題行動の見られる児童だけでなく、「声に出せない子どもたち」「がまんしている子どもたち」への対応に努めてほしい。</p>

<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<p>◎防災教育に対する肯定的評価の割合は、保護者、児童とも 90%台と高かった。安全教育については、保護者の肯定的評価の割合は、88.4%で昨年度よりも約 18 ポイント上昇、児童についても 95%以上の高い評価であった。様々な想定避難訓練やセーフティ教室などの取組が高い肯定的評価に結び付いていると考えられる。</p>	<p>改定した学校防災マニュアルを全教員で共通理解し、対応の徹底を図る。引き続き、避難訓練の大切さを児童に実感させ、真剣に取り組ませる。毎月の安全指導はその実施日時を指定するほか、各学年の発達段階や実態に応じたセーフティ教室を実施し、安全教育の充実に努める。</p>	<p>地域も避難所運営訓練を実施するなど、学校と連携しながら防災対策を講じていく必要がある。</p>
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>●小・中連携については、保護者の肯定的評価の割合が 75.8%で昨年度より約 18 ポイント上昇した。設問に具体的な取組を記載したことで評価が上がったと考えられる。</p>	<p>小・中連携育成プログラムに基づいて、中学校との児童・生徒交流や教員同士の情報共有の場を設ける。</p>	<p>近隣の幼稚園や保育園との連携も進めてほしい。</p>
<p>Ⅷ 情報の発信について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎保護者の肯定的評価の割合は 76.5%と伸び悩んでいる。教職員は 92.9%と大きな差が生じている。学校ホームページの周知不足や保護者の C4th Home&School の未確認などが影響していると考えられる。</p>	<p>学校ホームページの学校日記や学校だよりの内容を充実させていく。</p>	<p>学校ホームページをもっとアピールするとよい。学校からはマイナスの報告だけでなくプラスの報告も積極的に行ってほしい。学級通信の発行も効果的である。</p>

<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎教職員の肯定的評価の割合は、96.4%であった。協働性の高さや校内研修の充実について評価を受けたと認識している。</p>	<p>引き続き、校内研究、OJT ペアを生かした授業づくり、学習指導研究会、若手教員研修会の充実を図っていく。</p>	<p>それぞれの専門性が生かせるようになってほしい。</p>
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<p>◎教職員の肯定的評価の割合は、78.6%であり、昨年度より15ポイント近く下降した。今年度は、教員の入れ替えが多く、校務支援システムに慣れていない教員も多かったことが要因の一つと考えられる。</p>	<p>引き続き、業務内容や校務分掌の見直し・改善及び組織力の向上を図る。週1回ノー会議デーを設け、放課後の時間を主体的かつ有効に活用できるようにする。</p>	<p>先生たちには元気に明るく働いてほしい。そのためにもチームで協力し、職務にあたってほしい。</p>
<p>XI 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 服務事故防止に向けた取組などについて 	<p>◎個人情報の取扱いについて意識が高まっている。教室を密室にしないことも定着しつつある。</p>	<p>引き続き、個人情報の持ち出し管理簿の記入を徹底する。</p>	<p>仕事と心に余裕をもつことが服務事故防止につながる。</p>